

平成24年度第1回奈良市公民館運営審議会会議録

開催日時	平成24年7月3日(火) 午前10時00分から午前11時30分まで	
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室	
議 題	1 新役員選出 2 奈良市立公民館の概要及び、平成23年度公民館事業実施状況・利用状況について 3 平成24年度公民館事業計画について 4 平成23年度公民館大会についての報告 5 平成24年度公民館大会について 6 その他	
出席者	委 員	青木委員、井内委員、大場委員、粕井委員、北委員、権藤委員、島岡委員、田中委員、茶谷委員、中野委員、西橋委員、松村委員、宮池委員、宮辺委員、八木委員、山本委員、吉田委員 【計17人出席】
	事務局	教育長、教育総務部長、教育総務部次長、地域教育課長、地域教育課長補佐、生涯学習財団常務理事
開催形態	公開	
決定事項	—	
担 当 課	教育総務部地域教育課	

議事の内容

- 委員の紹介等
 出席者を紹介し、各々から挨拶
 会議への出欠状況を確認し、奈良市公民館条例施行規則第4条第2項に基づき、会議が成立することを報告

- 教育長の挨拶
 中室教育長から挨拶

- 新役員選出【案件1】
 八木委員が会長に選出され挨拶。
 奈良市公民館条例施行規則第3条第2項の規定により会長が議長に指名される。
 大場委員、宮辺委員が副会長に選出され挨拶。

- 会議録の署名について
 議事に入る前に議長から今回の署名委員の指名及び確認(粕井委員と権藤委員)

○奈良市立公民館の概要及び、平成23年度公民館事業実施状況・利用状況について 【案件2】

地域教育課長 奈良市立公民館の概要説明 昭和24年6月に社会教育法が制定されたことに伴い、本市でも奈良市公民館条例を制定しました。全国的に社会教育施設としての公民館が設置される中、昭和45年には1中学校区に1館の地区公民館の建設を目標とする公民館網整備計画が策定され、公民館施設の充実が図られてきました。平成10年に生涯学習の拠点である生涯学習センターを杉ヶ町に設置、平成17年には月ヶ瀬村、都祁村との合併に伴う地区館2館を加え、現在生涯学習センター、地区公民館23館の計24館を設置しています。また、分館28館については、社会教育活動の拠点として地区公民館を補完する目的で、1小学校区に1施設の設置が進められ、地域に密着したコミュニティーの場となっています。平成13年3月に生涯学習時代における地域住民の学習と地域づくりの支援拠点としての公民館の役割を強化するため、財団法人奈良市生涯学習財団を設立して、公民館の管理運営を委託し、専門職員による公民館事業の充実に努めてきました。平成18年4月からは多様化する住民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、民間の能力を活用し、住民サービスの向上を図るとともに、経費の削減等を図ることを目的として、指定管理者制度の導入し、公民館24館を財団法人奈良市生涯学習財団に、分館28館を地元自治会等に管理運営を委託しています。平成20年10月からは、奈良市行財政改革実施計画をもとに、公民館24館に対し使用料金制を導入し、1㎡あたり1時間の使用で4円10銭の使用料を徴収しています。平成23年度は約 3,250 万円の使用料収入があった。なお減免制度も設けています。平成24年4月から財団法人奈良市生涯学習財団が公益性の認定を受け、公益財団法人奈良市生涯学習財団に移行し現在に至ります。これが概要でございます。具体的な運営内容につきましては生涯学習財団より報告をさせていただきます。

財団常務理事 ただいま報告のありましたとおり、この4月から公益財団法人として新たに生涯学習財団が再出発いたしました。今後ますます地域の皆様、市民の皆様は生涯学習、社会教育の場として充実が図れますよう職員一同頑張っておりますので皆様どうぞよろしくお願いたします。それでは資料2に従って説明させていただきます。平成23年度は財団事業として415件、開催回数1,898回、受講者定員11,872人でのべ55,813名の受講者数がありました。分類別主催事業7分類にわたり幅広い事業展開をしている。大型館については施設の特徴を生かした事業や、立地を生かした事業展開を、特に生涯学習センターは教育大学との連携、古典文学、託児ボランティアの学習会を実施している。パソコン室でのパソコン講座も実施、中部公民館は300人を擁するホールがあるので、それに関わる事業を実施している。西部公民館は学園前ホールと共同開催の事業、体育室があるのでダンス、ウォーキングスポーツにも取り組んでいる。地区公民館は地域の特色、素材、課題に対応した事業の展開に取り組みました。特色ある事業として、生涯学習財団では平成22年度から「高齢者」「男女」

「青少年」「家庭教育」「共生」の5重点分野を設けている。特に地域の課題、現代的な課題に公民館が積極的に事業展開を図っている。それぞれの重点分野を各公民館で実施することを必須としている。その中でもそれぞれの分野について、特徴的な10講座を紹介させていただきます。それ以外にも防災に関する講座も実施している。各公民館は避難所として指定されており、先の東日本大震災の際も公民館が十分に機能し、職員が運営について大いに貢献したという事例が挙げられている。特に昨年度は被災地に出向いた市職員の体験談を伺いました。

その他、「奈良ひとまち大学」では奈良市を丸ごとキャンパスに見立て、奈良で魅力的な人に出会い、奈良のまちの文化・自然・モノに出会い学ぶ場ということで、今までになかった新しい学びの場を提供している。平成22年9月に開校し約2年目となる、回を重ねるごとに人気が増し、評価をいただいている。財団職員でプロジェクトチームを形成し、職員の専門性体験知識ネットワークを活用した、新しい学びの場としている。特に対象としているのは、日ごろ公民館になじみの薄い20～30歳の若い人、通勤・通学で奈良から離れている方たちに奈良の良さを再発見してもらおうとする事業であります。公民館の事業とは一味変わった、市内のいろいろな場所で、公民館ではできない事業を実施しています。参加者については、ほとんどが定員を超えており、20代30代の対象者は全体の42%だが、通常の公民館の事業の若者の参加率に比べ、相当高い参加率となっている。特にこの事業は通常の広報に加え、大学、商店、駅前、成人式会場等でチラシの配布、その他、ツイッター、ブログなど若者の関心を集めるようなPR方法を考えています。また毎月第4土日を中心に事業計画している。

「奈良市子育てスポット事業」を子ども育成課から委託を受け、9つの公民館で実施。毎月2回実施しています。子育て中の親同士の交流、悩みの共有、専門的なアドバイス等、子育てから離れて、自由な時間を持ってもらおうといった事業で、子ども同士の触れ合いも生まれてきている。最後に「生涯学習フェスタ2012」です。公民館の1年間の集大成として、1年間公民館で学んだことの発表の場として毎年実施している。そういう成果の発表の場と同時に、公民館の活動を広く市民の皆さんに知ってもらおうと同時に学ぶ仲間同士の交流を図ることを目的に実施。2012年については東日本大震災からちょうど1年目ということで、サブタイトルとして「みんなが学びの主役！笑顔の絆を広げよう」ということで、さまざまな発表や体験コーナーを設置して2日間にわたり広く展開をした。特にご協力いただいた各団体から東日本に元気を贈ろうということでメッセージを贈りました。これについては姉妹都市である郡山市、多賀城市にはパンフレットを公民館の窓口に置いていただいている。来場者は2,284人でバザー収益金や義援金についても送りました。また、岡田由美子さんの絆コンサートでは歌で東日本に元気を届けました。以上でございます。

○平成24年度公民館事業計画について【案件3】

財団常務理事 生涯学習財団では24年度も学習機会、学習の場の提供、さらには地域の皆さんの自主学習の支援、また、地域の活動の拠点として、地域の課題に対応、各団体との連携を図って事業展開をしていきます。事業計画については資料のとおりです。事業件数は354件、回数1,393回、定員8,458人となっており、その他自由入場の行事もあるので多くの皆さんに参加いただけたと考えています。それぞれ継続的な事業も新たな事業もあり、内容の工夫や新しい視点から地域の課題解決に沿った事業を今年度も各公民館で積極的に展開していきたいと考えています。24年度各公民館自主グループの登録件数については、自ら学ぼうということで、各分野別で1,716団体、昨年度より32団体が増加しております。また、今年度も引き続き奈良ひとまち大学にて魅力的な事業を実施し、多くの人に奈良の魅力を伝えていきたい。特に今年度は7月に初の一泊事業も計画しています。8月には2周年特別事業も考えています。また、今年も子育てスポット事業として、9つの公民館で毎月2回、年間24回の事業を実施していきます。最後に生涯学習フェスタ1013についても中部公民館で「あなたが学びの架け橋に 笑顔が繋がる公民館」をサブタイトルに実施したいと考えています。以上でございます。

○平成23年度公民館大会についての報告【案件4】

・第33回全国公民館研究集会参加報告(大場委員) 平成23年10月20日(木)～21日(金)

大場副会長 資料4でございます。資料は出張して1週間以内に提出した資料であります。非常に参考になりました。10月20日、21日佐賀市文化会館大ホールで行われました。出席者は1,778名奈良県からは、奈良市4名、橿原2名の計6名が出席しましたが、公民館が作られた経緯や公民館を取りまく現況ということで、みなさんご承知のとおり、住民のよりどころをということで、昭和22年に社会教育法に基づいて、全国に創出され、今年で65年になります。各地域、非常に地域に根差した公民館となっている。特に昨年の3月11日の東日本大震災でその真価が問われました。この公民館の創出の原点であるべき地域再建の活動について、非常に活発な議論が行われました。今年ほど絆が叫ばれることはないが、非常に大切な人と人との連携が大切であると学びました。全体会議は10月20日に佐賀文化会館で行われ、そこで、岩手県宮古市の公民館長の坂下氏から当時のビデオを見ながら詳細に報告がありました。また、岩手県盛岡市の赤沢氏からは23万冊の絵本を届けたとの報告がありました。大変な状況の中をみなさんよくやられていると思いました。緊急フォーラムという形で、アピール文が採択され、改めて公民館のあるべき姿を、誰でも親しみを持てる公民館、地域や社会共通の課題に応えられる公民館、人と人との絆を深め明るい未来を創る公民館、社会に必要とされるリーダーが育つ人づくりに貢献する公民館を目指していこうということでした。分科会については第1分科会が「公民館の運営と住民参画」ということで出席しました。全体の半数に当たる916名の方が第1分科会に参加されており、いかに震

災後の公民館の運営と住民参画に関心が深いかということが伺われた。中でも活性化委員会を核とした地域づくりについて、各公民館が苦心されている様子について、宮崎県都城市の公民館長からもいろいろな説明がありました。講座がたくさんあるが、75歳以上の方は公民館に車で迎えに来ていると言うぐらいに公民館を利用している。そこでは、麻雀は禁止だが、飲酒はOKだとのこと。今の市立公民館は飲食も禁止となっている。全てがOKというのも問題があるが、みんなが集まりやすい公民館としているなどと思った。食事くらいは許可してほしいというような願いもあります。発表の②では 地域に息づく公民館～地域に元気、みんな笑顔～と題して、京都府綾部市の発表があり、人口は36,674人であり、奈良市のちょうど1/10の規模であります。市内には12の地区公民館があり、これから考えると奈良市では10倍の120の公民館があってもいいのかなと思っています。ただ、運営にあたっては大変だとのこと。活動はとても活発です。公民館活動の住民参加が大変重要だとありました。

私は平城東公民館に所属しておりまして詩吟クラブをしておりますから、奈良県総連盟で震災後、奈良県の赤十字を通じて30万円を寄付しました。これが奈良新聞に取り上げられまして、起爆剤となり30万、50万、100万と義援金が集まって、最終的には千数百万円の規模となりました。それ以外にも平城東公民館の自活協においても10万ほど3月中に届けました。こういうことからいかに組織が大事かということを感じたわけです。個人個人では難しいが、組織があると動きやすい。そして今年は古事記ができて1,300年ということでマンガ本を地域において配ったのですが、瞬く間に1,000冊以上が売れました。当初漫画とってばかにしていましたが、漫画ほど簡潔に説明されているものはないと思いました。以上が概略でございます。

・第59回近畿公民館大会参加報告(島岡委員) 平成23年11月10日(木)～11日(金)

島岡委員 大会の翌日が、B級グルメの大会があるということで、準備されていたのですが、福島のやきそばが1位になったというようなことを、いろいろ思い出しておりました。奈良県からは私が希望いたしました、「地域で根差す家庭教育」ということで、平城東公民館の発表がありました。報告を聞いておきますと、いろいろ講座がある中で、1/3がこの地域で根差す家庭教育のテーマをもとに計画されているということでした。発表もなかなか良かったです。こういうことが奈良で行われていることはいいことだと感心しました。この報告書のとおり、親子や赤ちゃん、子育てといった交流会をもつことで、直接公民館の講座に参加していない方にもどんどん誘いかけたいこうといったような感じを受けましたし、地域の自然を生かして参加者を増やしていこう、また普段公民館を利用しないような若い方、中間世代をもう少しみんなに変えていこう、また、主催事業だけでなく、地域の中で特技を持った人材が多いらっしゃるので、そういう方を発掘し、活動を深めていこうということでした。公民館と学校、子育て世代、高齢者世代、地域の住民が公民館の活動の枠外で繋がっているこういうものを一つの輪にして、最後に公民館と色々なサークルと繋がるわけです。これが新しい結び方ではないかとまとめておられました。また、助言をしてく

ださっていた方も公民館は新しいコミュニティーの発展していく場として、育てていきたいとのことでした。

2日目は全体会としてパネルディスカッションがありまして、基調講演として神戸大学大学院の方の講演でしたが、阪神大震災の際学生たちを大船渡市の赤崎地区に連れて行き、現地の中で支援していったとのことでした。パネラーとしては神戸市の小野さんという方が、阪神淡路大震災の時に、公民館の職員として、避難所リーダーとして活動されたとのことでした。そして、淡路の北淡公民館長は何か手伝えることはないかということで活動している中で、公民館は条件は良いが、ライフラインが止まるとただの入れ物だ。備蓄品もどこか別のところにあることがあり、そこから公民館に運ぶことがとても大変だとのことでした。豊岡市の方は、平成16年の円山川の決壊で夜中に避難指示が出た時の自分の実体験からの提言もありました。詳細はまた読んでいただいたら結構です。

私もいま伏見地区で民生委員をしており、緊急時の高齢者の避難のことで悩んでいる。緊急時に一人である方を避難させることが大切。伏見公民館は小高い山の上にある。ただそこまであるいていけない。西大寺の駅前等の平地のところにもそういった場所ができたらいいなと思いました。公民館や学校は災害時にそこに行けばなんとかなる、安心して過ごすことができるという場所になっておりますので、今の公民館の古い施設設備をなんとかもう少し、使いやすいものに変えて行ってもらえたらいいなと思って、この2日間過ごしておりました。

八木会長 ありがとうございます。この近畿大会は2日間姫路の方で行われたわけですが、2日間宿泊されたのですか。

島岡委員 はい、通うのは大変でしたので宿泊をさせていただきました。

八木会長 また、この辺についてもご配慮もお願いいたします。ありがとうございます。

・奈良県社会教育委員連絡協議会及び奈良県公民館連絡協議会合同研修会（権藤委員）2月1日（水）

八木会長 9月に行われるはずであった奈良県公民館大会については、権藤委員と中野委員にお願いしておりましたが、台風接近のため中止となりました。そのかわりとしたしまして、2月に奈良県社会教育委員連絡協議会及び奈良県公民館連絡協議会合同研修会が開催されまして、権藤委員に参加をさせていただきましたので報告をお願いします。

権藤委員 テーマが防災に関わるもので、何となく奈良に住んでいて防災は必要ないといった思いでいました。また、参加にあたっては天理も橿原も吉野もマイクロバスで参加していて、私は1人でした。話し合いはグループ討議が中心だったのだが、1人で行ったので、入ることができず何となく寂しい思いをしました。入口では受付係の方がいらっしまったのだが、実はその人が報告者でした。それはなぜかという、そ

こで来るお客さんの雰囲気を見たかったとのこと。内容は神戸で震災があった時のことでした。震度5の地震の際、そのまま家の中にいたら、自分が上を向いているのか、うつ伏せになっているのか分らなくなるとのこと。一般的に災害用に水をためておきなさいというが、3日間もたてば、給水車が来るのでそんなに多くはいらない等、実地的なお話でした。その中で、公民館の研修会には今現役で働いているような方は来ない。こういう話は、そうした人の目にも止まるように病院の待合室等に掲示しておくのがいい。具体的には、皆さん寝る時枕元に靴はおいているかと聞かれた。倒壊した際、足をけがすると動けなくなるので、必ず底の厚い靴かスリッパを置いておこうとのこと。また、同じく枕元にメガネを置いている人が多いが、踏んだらケガをしてしまうので、必ずハードケースに入れて置いておいてほしいとのこと。この2つのことでいいので、自分の知ったことを隣の人や知り合いの人に、教えて頂いてみんなで情報を共有して、そこから地域の輪を広げていったらいいと教えていただきました。

八木会長 奈良の方は災害はありませんでしたが、南部の方では大きな災害がありました。このような機会に聞いた体験談などを自分の生活に生かして、また、近隣の方々にお伝えするのも我々の仕事ではないかと思えます。ありがとうございました。

○平成24年度公民館大会について【案件5】

事務局から「第34回全国公民館研究集会兼第60回近畿公民館大会」と、「第60回奈良県公民館大会及び第24回奈良県社会教育研究大会」について詳細を説明し、全国大会については青木委員が、奈良県公民館大会は粕井委員と吉田委員が出席することで決定した。

○その他【案件6】

八木会長 その他ですが、皆様何か質疑等ございませんでしょうか。

大場副会長 すみません。お手元に青と赤のチラシを配らせていただいておりますが、青い方が平城東公民館の会報です。年に3回ほど出しております。その中で平城東公民館祭りが今年は11月10、11日に2日間行われます。その内容は自主グループの活動のPRなどです。また会報の最後のページには、公民館の大ホールに大きな姿見が欲しいという皆さんからの希望にこたえて、約10万円ほどかかりましたが、大きな鏡を作り寄贈しました。そして市長、理事長からお礼状が届いたことをここに載せています。こういった報告を平城東公民館の管轄する朱雀、左京、佐保台地域に約7000部配って皆さんに広報しています。

赤い方は、朱雀のふれあい会館の自主グループ活動連絡協議会の会報で1年に1回出しています。公民館は24館あり、それ以外にも分館が28館あります。平城東公民館の区域には今の公民館、分館以外にもふれあい会館がある。この会報となっています。以上です。

八木会長 ありがとうございます。公運審が開催されるたびに、大場副会長には公民館だより等をご持参いただき、私たちも大変参考にさせていただいております。是非とも今年度の公民館まつりには万事繰り合わせて参加させてもらいたいと思うところです。

他に、何かご質問ご意見等ございませんでしょうか。

ないようでございますので、これをもちまして、平成24年度第1回奈良市公民館運営審議会を終わらせていただきます。委員の皆様本当にありがとうございました。

なお、先ほどお願いをいたしました、全国大会、奈良県大会にご出席していただきます方、レポートの方またよろしく願います。ありがとうございました。

資 料

奈良市立公民館の概要及び平成23年度公民館事業実施状況・利用状況について
平成24年度公民館事業計画について
平成23年度公民館大会についての報告
平成24年度公民館大会について
法令関係資料